

末梢性顔面神経麻痺のリハビリテーションに関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2025 年11月19日～ 2028 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

末梢性顔面神経麻痺のリハビリテーションと臨床および電気診断学的評価と予後に関する検討

〔研究目的〕

当院リハビリテーション科に通院中の評価を用い、末梢性顔面神経麻痺の治療経過と後遺症（顔面拘縮、共同運動、顔面痙攣）の有無など予後に関わる要因を検討します。

〔研究意義〕

末梢性顔面神経麻痺の臨床評価尺度として臨床診察の結果を点数化する柳原法と電気診断学的評価のElectroneurography (ENoG)の結果から、ある程度の予後予測が可能です。一方で、改善に6か月以上を要することやボツリヌス治療を要する後遺症が残る場合があります。末梢性顔面神経麻痺の診断からボツリヌス治療まで含めた包括的なリハビリテーション治療を単一で実施できる施設は当院など少数です。治療効果の予測により役立つ要因の有無を検討します。

〔対象・研究方法〕

2020年9月以降2025年8月までに当院でリハビリテーションを行った末梢性顔面神経麻痺の患者さんを対象として、診断からリハビリテーションを開始するまでの期間、リハビリテーションの実施期間と頻度、リハビリテーション科通院中の診察で症状を点数化した結果と検査（筋電図、瞬目反射、ENoG）の結果を解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院リハビリテーション科

〔個人情報の取り扱い〕

厚生労働省が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて行われ、個人情報は厳重に管理、保護します。この研究の解析データには個人の特定が可能な情報は含まれていませんが、研究結果を学会や論文などで発表する場合に個人が特定できることが生じないように管理します。

〔その他〕

この研究はすでに行われた医療行為に関して検討するものであり、健康被害が生じることはありません。謝金は生じません。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力お願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 氏名 原 元彦 職名 帝京大学医学部附属溝口病院 リハビリテーション科教授
所属: 帝京大学医学部附属溝口病院 リハビリテーション科
住所: 〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子 5-1-1 TEL: 044-844-3333 (代表)